



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA
コード番号 9468 URL <https://group.kadokawa.co.jp/>
代表者 （役職名）取締役 代表執行役社長 CEO （氏名）夏野 剛
問合せ先責任者 （役職名）取締役 執行役 COO （氏名）村川 忍 TEL 03-5216-8212
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	68,252	5.3	1,264	△45.5	2,409	2.5	△4,540	—
2026年3月期第1四半期	64,844	△1.5	2,318	△61.5	2,349	△69.5	2,858	△17.2

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 △4,296百万円（－％） 2026年3月期第1四半期 2,977百万円（△34.8％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	EBITDA	
	円 銭	円 銭	百万円	％
2027年3月期第1四半期	△30.90	—	3,612	△19.3
2026年3月期第1四半期	19.51	18.99	4,475	△42.6

（注）EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年3月期第1四半期	376,040	268,362	62.7	1,603.23
2026年3月期	394,864	276,747	62.0	1,667.01

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 235,620百万円 2026年3月期 245,004百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	0.00	—	30.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	百万円	%
通期	300,300	6.1	10,100	24.7	12,000	2.6	1,000	△21.8	6.80	20,100	14.2

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正につきましては、本日（2026年8月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	148,990,296株	2026年3月期	148,990,296株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	2,024,612株	2026年3月期	2,017,413株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	146,965,865株	2026年3月期1Q	146,548,289株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結損益計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象の注記)	11

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当社グループは、「世界の才能と、感動をつなぐ、クリエイティブプラットフォームへ」をコーポレートミッションとして掲げ、出版・IP創出、アニメ・実写映像、ゲーム、Webサービス、教育・EdTech事業等において、多彩なポートフォリオから成るIP（Intellectual Property）を安定的に創出し、事業間連携によりIPのLTV（Life Time Value）の最大化を図ることに加え、最新のテクノロジーを常に取り入れることで、IPを世界に広く展開する「グローバル・メディアミックス with Technology」の基本戦略を推進し、中長期的な成長及び企業価値の向上を目指しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高682億52百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益12億64百万円（前年同期比45.5%減）、経常利益24億9百万円（前年同期比2.5%増）となりました。なお、早期退職特別募集施策に伴って発生した割増退職金等を特別損失として約54億円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は45億40百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益28億58百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメントの業績は、以下のとおりです。

[出版・IP創出事業]

出版・IP創出事業では、書籍・雑誌の出版・販売、電子書籍・電子雑誌の出版・販売、Web広告の販売、権利許諾等を行っております。当事業においては、メディアミックス展開の重要な源泉として多様な新規IPを継続的に創出しており、これにより蓄積された豊富な作品アーカイブが当社グループ成長の原動力となっております。

書籍・雑誌は、米国とアジアの既存拠点で堅調な成長を実現したことに加え、近年グループ入りした新規拠点の貢献もあり海外事業が増収となりました。国内では価格改定や返品率の改善等の事業構造改革の成果や、ヒットタイトルの貢献等により増収となりました。電子書籍・電子雑誌においてもヒットタイトルの貢献を主因として増収となりました。一方で、ライセンス収入は減収となりました。

利益面では、上記増収影響に加え、人件費等の費用減少もあり、セグメント全体として増益となりました。

この結果、当事業の売上高は379億66百万円（前年同期比10.2%増）、セグメント利益（営業利益）は11億87百万円（前年同期 営業損失9億67百万円）となりました。

[アニメ・実写映像事業]

アニメ・実写映像事業では、アニメ及び実写映像の企画・製作・配給、映像配信権等の権利許諾、パッケージソフトの販売等を行っております。

アニメでは、『Re:ゼロから始める異世界生活』や『ようこそ実力至上主義の教室へ』等の人気シリーズや『姫騎士は蛮族の嫁』等の新作アニメを中心に国内・海外における2次利用展開売上高が堅調に伸長し、増収となりました。実写映像は、スタジオ事業の貢献により増収となりました。

利益面では、アニメにおける継続的な製作費高騰の影響が大きく、セグメント全体で減益となりました。

この結果、当事業の売上高は124億78百万円（前年同期比26.1%増）、セグメント損失（営業損失）は6億60百万円（前年同期 営業利益1億37百万円）となりました。

[ゲーム事業]

ゲーム事業では、ゲームソフトウェア及びネットワークゲームの企画・開発・販売、権利許諾等を行っております。

(株)フロム・ソフトウェアの『ELDEN RING』をはじめとしてリピーター販売が堅調に推移したものの、『ELDEN RING NIGHTREIGN』の販売が好調だった前年同期からは減収となりました。

利益面では、上記減収要因を中心として、セグメント全体で減益となりました。

この結果、当事業の売上高は54億18百万円（前年同期比37.4%減）、セグメント利益（営業利益）は13億90百万円（前年同期比58.8%減）となりました。

〔Webサービス事業〕

Webサービス事業では、動画コミュニティサービスの運営、各種イベントの企画・運営、モバイルコンテンツの配信等を行っております。

動画コミュニティサービスでは、動画配信サービス「ニコニコ」の月額有料会員（プレミアム会員）の減少を主因として減収となりました。一方でイベントの企画・運営において「ニコニコ超会議2026」の来場者数が昨年度を上回ったこと等により、セグメント全体として増収となりました。

利益面では、ITインフラコストが前期比増となった影響に加え、音楽を含めたクリエイター育成のための投資費用も発生し、セグメント全体として減益となりました。

この結果、当事業の売上高は53億70百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益（営業利益）は5億93百万円（前年同期比14.0%減）となりました。

〔教育・EdTech事業〕

教育・EdTech事業では、専門校運営及びインターネットによる通信制高校等向けの教育コンテンツ・システム提供等を行っております。

クリエイティブ分野の専門校を運営する(株)バンタンでは、2026年4月に開校した新スクール「バンタンミュージックアカデミー」や展開地域拡大の貢献により生徒数が増加し、増収となりました。また、(株)ドワンゴでは、通学コース向け新キャンパス開設や継続的な教育コンテンツの拡充等により、N高等学校・S高等学校・R高等学校と設立2年目のZEN大学で生徒数が引き続き増加し、堅調に推移しています。

利益面では、上記増収影響によりセグメント全体で増益となりました。

この結果、当事業の売上高は47億89百万円（前年同期比9.1%増）、セグメント利益（営業利益）は8億95百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

〔その他事業〕

その他事業では、キャラクターグッズ等の企画・販売を行うMD事業、及びところざわサクラタウン運営やイベント企画等を行うレクリエーション事業等を行っております。

MD事業では商材の期ずれ影響を主因として減収となりました。レクリエーション事業では昨年度における一部不採算事業の撤退の影響もあり、売上としては減少しました。一方で、それ以外の事業ではVRシステムの開発を行う(株)バーチャルキャストの増収や前期グループ入りした子会社の連結影響等により増収となり、セグメント全体としても増収となりました。

利益面では、MD事業は原価高騰の中、コスト効率改善により横ばいを維持しました。またレクリエーション事業では継続的なコストコントロール等により赤字幅縮小を実現した一方で、それ以外の事業において一部の子会社で費用が増加した影響により、セグメント全体としても減益となりました。

この結果、当事業の売上高は34億72百万円（前年同期比2.9%増）、セグメント損失（営業損失）は11億7百万円（前年同期 営業損失10億22百万円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて188億24百万円減少し、3,760億40百万円となりました。これは主に長期借入金の返済により現金及び預金が増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて104億39百万円減少し、1,076億77百万円となりました。これは主に長期借入金を返済したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて83億85百万円減少し、2,683億62百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと及び配当金の支払により利益剰余金が増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及び契約資産の減少等による収入があったものの、賞与の支払及び棚卸資産の増加等により、20億74百万円の支出（前年同期は19億52百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等があった一方、定期預金の払戻等により、123億80百万円の収入（前年同期は101億7百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や配当金の支払等により、144億41百万円の支出（前年同期は46億56百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて38億5百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、869億68百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間においては、出版・IP創出セグメントにおける事業構造改革を中心とした業績改善をはじめ、各セグメントにおいて好調に推移しており、2026年5月14日公表の業績予想に対し概ね想定通り進捗しております。一方で、2026年7月2日付の「早期退職特別募集施策の実施結果及び特別損失の計上に関するお知らせ」のとおり、同施策の結果として当第1四半期連結累計期間において約54億円の特別損失が発生しました。

以上より、2027年3月期の通期連結業績予想につきまして、親会社株主に帰属する当期純利益を修正いたしました。なお同施策により、第2四半期以降に約11億円の人件費削減効果を見込んでおりますが、現時点においては営業利益、経常利益の予想は変更していません。

詳細につきましては、本日（2026年8月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	116,001	94,590
受取手形	1,632	1,477
売掛金	75,995	70,522
契約資産	3,181	3,255
有価証券	829	—
棚卸資産	41,939	45,167
前払費用	4,064	6,422
その他	15,151	17,214
貸倒引当金	△350	△381
流動資産合計	258,445	238,269
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	50,104	50,642
減価償却累計額	△18,117	△18,791
建物及び構築物（純額）	31,987	31,850
機械及び装置	7,755	7,807
減価償却累計額	△4,297	△4,480
機械及び装置（純額）	3,458	3,326
工具、器具及び備品	7,969	8,213
減価償却累計額	△5,477	△5,655
工具、器具及び備品（純額）	2,492	2,558
土地	28,375	28,375
建設仮勘定	348	724
その他	1,882	1,867
減価償却累計額	△795	△866
その他（純額）	1,087	1,001
有形固定資産合計	67,748	67,836
無形固定資産		
ソフトウェア	12,953	14,557
のれん	5,930	5,745
その他	4,536	3,536
無形固定資産合計	23,421	23,839
投資その他の資産		
投資有価証券	30,615	31,896
退職給付に係る資産	924	933
繰延税金資産	4,927	4,616
保険積立金	1,982	2,004
差入保証金	4,499	4,508
その他	2,408	2,258
貸倒引当金	△107	△122
投資その他の資産合計	45,249	46,094
固定資産合計	136,418	137,770
資産合計	394,864	376,040

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,586	40,071
短期借入金	115	290
1年内返済予定の長期借入金	10,153	134
未払金	13,035	13,092
未払法人税等	1,704	743
契約負債	17,800	16,029
預り金	10,663	13,963
賞与引当金	6,182	2,616
返金負債	6,673	6,543
株式給付引当金	100	100
役員株式給付引当金	1,060	1,060
その他	6,566	6,573
流動負債合計	111,641	101,218
固定負債		
長期借入金	658	622
繰延税金負債	1,021	1,105
退職給付に係る負債	1,807	1,841
その他	2,987	2,889
固定負債合計	6,475	6,458
負債合計	118,116	107,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	65,613	65,613
資本剰余金	85,734	85,734
利益剰余金	82,763	73,760
自己株式	△4,838	△4,839
株主資本合計	229,271	220,268
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,556	9,000
為替換算調整勘定	5,174	5,407
退職給付に係る調整累計額	1,002	944
その他の包括利益累計額合計	15,732	15,351
新株予約権	3,035	3,408
非支配株主持分	28,707	29,333
純資産合計	276,747	268,362
負債純資産合計	394,864	376,040

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	64,844	68,252
売上原価	41,401	45,640
売上総利益	23,442	22,611
販売費及び一般管理費	21,124	21,347
営業利益	2,318	1,264
営業外収益		
受取利息	251	166
受取配当金	367	305
持分法による投資利益	228	376
為替差益	—	246
物品売却益	19	24
その他	213	68
営業外収益合計	1,079	1,188
営業外費用		
支払利息	21	15
為替差損	1,007	—
その他	20	27
営業外費用合計	1,048	43
経常利益	2,349	2,409
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	768	—
特別利益合計	770	0
特別損失		
投資有価証券評価損	68	7
特別退職金	—	※1 5,374
その他	0	1
特別損失合計	68	5,382
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,051	△2,973
法人税等	△657	1,042
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,708	△4,015
非支配株主に帰属する四半期純利益	850	525
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,858	△4,540

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失（△）	3,708	△4,015
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	304	△555
為替換算調整勘定	△994	328
退職給付に係る調整額	△20	△60
持分法適用会社に対する持分相当額	△21	7
その他の包括利益合計	△730	△280
四半期包括利益	2,977	△4,296
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,419	△4,921
非支配株主に係る四半期包括利益	558	625

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,051	△2,973
減価償却費	1,976	2,128
のれん償却額	180	231
株式報酬費用	661	449
特別退職金	—	5,374
投資有価証券売却損益(△は益)	△768	—
投資有価証券評価損益(△は益)	68	7
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△170	△63
返金負債の増減額(△は減少)	△601	△152
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,173	△3,565
受取利息及び受取配当金	△618	△472
為替差損益(△は益)	833	△116
持分法による投資損益(△は益)	△228	△376
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	4,828	5,655
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,307	△3,175
仕入債務の増減額(△は減少)	1,096	2,422
契約負債の増減額(△は減少)	△2,357	△1,802
その他	△1,731	△5,487
小計	736	△1,915
利息及び配当金の受取額	1,308	1,187
利息の支払額	△15	△17
法人税等の支払額	△3,983	△1,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,952	△2,074
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△6,023	18,403
有形固定資産の取得による支出	△1,043	△1,353
無形固定資産の取得による支出	△2,014	△2,330
投資有価証券の取得による支出	—	△2,212
投資有価証券の売却による収入	1,237	0
連結の範囲の変更を伴う子会社持分の取得による支出	△2,183	—
その他	△80	△127
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,107	12,380
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△51	175
長期借入金の返済による支出	△73	△10,055
配当金の支払額	△4,428	△4,462
その他	△103	△98
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,656	△14,441
現金及び現金同等物に係る換算差額	△669	329
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△17,385	△3,805
現金及び現金同等物の期首残高	129,674	90,774
現金及び現金同等物の四半期末残高	112,288	86,968

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※1 特別退職金

特別損失に計上した特別退職金の内容は、早期退職特別募集施策実施に伴う割増退職金等であります。

- 2 当社グループは、「グローバル・ミニマム課税制度に係る法人税等の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第46号 2024年3月22日)第7項を適用し、当第1四半期連結累計期間を含む対象会計年度に関する国際最低課税額に対する法人税等を計上していません。

(セグメント情報等の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版・ IP創出	アニメ・ 実写映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	34,007	9,600	8,602	5,227	4,386	3,019	64,844	—	64,844
セグメント間の内部 売上高又は振替高	455	296	52	128	2	355	1,290	△1,290	—
計	34,463	9,896	8,655	5,355	4,388	3,375	66,134	△1,290	64,844
セグメント利益又は 損失(△)	△967	137	3,379	690	858	△1,022	3,076	△757	2,318

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、キャラクターグッズの企画・販売、施設の運営等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△757百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△761百万円であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 地域ごとの情報

売上高

(単位: 百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
52,534	6,515	4,428	1,365	64,844

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

出版・IP創出事業において、当第1四半期連結会計期間にEdizioni BD S.r.l. (イタリア)の持分を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、のれんの金額が2,328百万円増加しております。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版・ IP創出	アニメ・ 実写映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	37,463	12,352	5,380	5,229	4,789	3,036	68,252	—	68,252
セグメント間の内部 売上高又は振替高	502	125	38	141	0	436	1,244	△1,244	—
計	37,966	12,478	5,418	5,370	4,789	3,472	69,497	△1,244	68,252
セグメント利益又は 損失 (△)	1,187	△660	1,390	593	895	△1,107	2,299	△1,034	1,264

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、キャラクターグッズの企画・販売、施設の運営等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,034百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,037百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 地域ごとの情報

売上高

(単位：百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
54,590	6,848	4,888	1,925	68,252

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。